



年間第 31 主日 (ルカ 19:1-10)

失われたものを捜して救うためにできることをする

年間第 31 主日 C 年は「徴税人ザアカイ」の物語です。「この人は徴税人の頭で、金持ちであった。」(19・2) 少し嫌味を感じる登場の仕方をしてしています。その彼が、イエスと出会うこととなります。たくさんの人がイエスの前を通り過ぎ、出会うことなく去っていく中で、ザアカイは確実に主との出会いの機会を捉えました。出会うことなく去っていく人々には何が足りないのでしょうか。ザアカイには出会うことのできる何が備わっていたのでしょうか。

徴税人ザアカイと言いますと、わたしには思い出される人がいます。長崎教区の補佐司教から福岡教区の司教となった松永久次郎司教様です。わたしが福岡の大神学院にいた時、特別講話だったか、黙想会指導だったか、よく覚えませんがお話をさせていただきました。

実際の講話は、あまりの優秀さに雲の上の人だと感じました。一つ例を挙げると、司教様はローマの神学院を卒業してからギリシャ語をたった1年で習得したそうです。そんな話を聞かされると、わたしたちは「努力が足りず申し訳ありません」としか返事のしようがありませんでした。それでもユーモアを感じさせる話もありました。それは松永司教様が司祭叙階の恵みを受けた時に選んだ聖句についての話でした。

皆さんもよくご存知かと思いますが、松永司教様は背の低い方でした。ご本人はどう思われていたか知りませんが、ローマで司祭に叙階された際の記念カードに、ラテン語で次のように記したそうです。

<<Zacchaeae, festinans descende, nam hodie in domo tua oportet me manere>>.これはイエスがザアカイに言われたことばです。「ザアカイ、急いで降りて来なさい。今日は、ぜひあなたの家に泊まりたい。」(19・5) 背の低いザアカイに自分をなぞらえて、イエスが声をかけ、わたしを召し出してくださった。神の不思議な計画を、思い切った聖句の使い方残そうと思われたのでしょうか。

ひょっとすると、松永司教様は、ご自分がのちに司教に叙階されることも見据えて、この聖句を選んだのかもしれない。神は、背の低いわたしを取り上げて、教区の牧者としてくださる。その姿も見据えてのことだとしたら、ものすごい先見の明だと思います。

福音書に戻りましょう。ザアカイには、イエスと出会う何かが備わっていたはずですが、何だったのでしょうか。イエスの最後のことばに答えがあります。「人の子は、失われたものを捜して救うために来たのである。」(19・10) ザアカイはイエスにとって失われたもの、捜して救うものだったのです。

ザアカイは、はじめ「イエスがどんな人か見ようとした」(19・3) のですが、彼が望めば人々を横に押しやって、一対一でイエスの前に立つこともできたでしょう。彼は人々に嫌われる仕事をしていたとは言え、「頭(かしら)」であったわけですし、金持ちでもあったので、人々を

横に追いやることは簡単だったでしょう。

しかし彼は、いじちく桑の木に登ってイエスを眺めることを選びました。つまりザアカイは、イエスとそれほどかかわりを深めようとは思っていませんでした。イエスにもそんなつもりはないだろう、きっとそう思っていたはずで、ところがイエスは、ザアカイに会って、話を聞き、食事を共にする気持ちでいっぱいだったのです。

「ザアカイ、急いで降りて来なさい。今日は、ぜひあなたの家に泊まりたい。」ただ木に登っているだけでは、イエスの目には留まらなかったかもしれません。ザアカイも、たとえ自分が木に登っても、イエスの目には留まらないだろうと思いつつ眺めたかもしれません。けれども「失われたものを捜して救うために来た」イエスは、敏感にザアカイの存在に気づいたのです。

ところで「失われたもの」の立場にある人は、イエスと出会うと必ず救われるのでしょうか。わたしは、イエスが出会おうとされる時に心を開いて耳を傾ける人には、救いが与えられると思います。しかし、イエスが捜し求めて出会おうとされても、心を開かず、耳を貸そうとしないなら、その人に救いは訪れないと思います。

ザアカイは、イエスが捜し出してくれたことを深く心に刻み付けます。彼は180度向きを変え、「失われたもの」から「捜してもらい、救われた者」として生きる決心をしたのです。「主よ、わたしは財産の半分を貧しい人々に施します。また、だれかから何かだまし取っていたら、それを四倍にして返します。」(19・8)

しかし周りにいた人々はザアカイを認めようとしません。罪人が救われるはずがないと決めてかかっています。それはわたしたちがつい陥ってしまう考えでもあります。「あの人は変わらない。」たしかに自分一人では、誰も過ちから立ち帰り、まともな生活に戻れないかもしれません。けれどもイエスが働いてくださったのなら、変わるかもしれないのです。イエスが捜し出してくださったことを繰り返し思い出し、歩み続けるなら、人間の努力を超える力が人を導くのではないのでしょうか。

11月から地区集会に伺います。わたしも、捜し求めている人がいます。誰にも相談できないでいる人です。家族に心配をかけたくないと相談できずにいる人、子どもに叱られるから言えないと悩んでいるお年寄りの方です。その人たちを捜し求め、解決策を考えたいと思っています。

わたしは、イエスが捜し出そうとしている人でしょうか。あるいはそのような人と知り合いではないのでしょうか。イエスがあなたを捜し当てた時、「わたしはあなたの勧めに耳を傾けます。生き方を自分中心から、キリスト中心に向け直します」と答えることができるのでしょうか。

あるいはイエスが捜し求めている人を知っているなら、「イエスよ、どうかあの人を早く捜し当ててください。わたしたちでなく、あなたのことばで立ち直らせてください」と祈るべきです。失われている人が一人でも多くイエスのもとに導かれ、救われて、神の国が広がっていきますように。このミサの中で願いまししょう。